

会議の目的及び進め方 ①会議の目的

資料 1

設置目的

- ① 持続可能な地域経済の確立に向けた新規施策等の検討
- ② ひょうご経済・雇用戦略推進会議（以下、「推進会議」という。）の分科会として、社会経済情勢や現場の課題に即した施策に結びつく、踏み込んだ議論を行う

経済分科会 構成員名簿

(敬称略・五十音順)

氏名	団体・役職等
上村 敏之	関西学院大学経済学部教授
小田垣 栄司	株式会社ノヴィータ代表取締役会長
國井 総一郎	株式会社ノーリツ会長（神戸商工会議所副会頭）
後藤 こず恵	流通科学大学商学部准教授
西山 桃子	株式会社西山酒造場女将
畑 豊	兵庫県立大学副学長兼産学連携・研究推進機構長
藤岡 ゆか	藤岡金属株式会社代表取締役（関西学院大学国際学部・国際教育協力センター講師）
村山 滋	川崎重工業株式会社特別顧問
山下 紗矢佳	武庫川女子大学経営学部専任講師

構成員（9人）

会議の位置づけ

ひょうご経済・雇用戦略推進会議

- 戦略の効果的な推進、評価・検証、新たな施策の検討、戦略の充実等が目的
- 会議での議論の内容は、今後の政策形成の参考（機関意思のとりまとめなし）
- 推進会議の設置期間：1年

経済分科会

- 推進会議で挙げた経済・産業分野の課題について詳しく掘り下げ
- 全2回の議論を踏まえ、推進会議に結果を還元
- 構成員は推進会議構成員を中心に選定

雇用分科会（人手不足問題対策会議）

- 現場ヒアリング、推進会議で挙げた雇用分野の課題について詳しく掘り下げ
- 全3回の議論を踏まえ、推進会議に結果を還元
- 構成員は推進会議構成員に加え、特徴的な取組を行っている企業経営者等を新たに選定

ひょうご経済・雇用戦略

- **計画期間** 2023（R5）～ 2027（R9）年度
- **戦略の趣旨**
産業・雇用分野での県政運営の基本的考え方及び施策の方向を示し、産学官民が協働して推進を図っていくための共有シナリオ
- **戦略の推進体制**
学識者、産業・雇用団体代表者、企業人等からの課題提起と施策検討の場として、ひょうご経済・雇用戦略推進会議を開催

② 会議の進め方

議論の目的

- 「第1回推進会議意見」について、県での事業化を念頭に、課題や取組の方向性を深掘りする
- 「ひょうご経済・雇用戦略に基づき県が重点的に取り組んでいる事業」について、事業の拡充や新たな展開の方向性を議論する

主な議論のテーマ

主な議論テーマを以下のとおりとする

- ① 成長産業の育成、起業支援（注力すべき分野、スタートアップ支援の方向性など）
- ② DX等による生産性の向上（企業のDX振興・支援の方向性など）
- ③ 地場産業の競争力強化（地場産業振興・支援の方向性など）

スケジュール（予定）

	8月	9月
会議	第1回会議	第2回会議
内容 テーマ	課題整理と方向性	議論総括

推進会議で共有
体系的な整理

- 産業政策として検討
- 予算・事業化へ

議論の対象

重点プロジェクト	第1回推進会議意見	ひょうご経済・雇用戦略に基づき県が重点的に取り組んでいる事業
①成長産業の育成	<ul style="list-style-type: none"> ● 新しい産業クラスター形成(IT、アニメ) <ul style="list-style-type: none"> ・「とがった」産業への特化 <p>【IT産業】 広島県等はIT産業に特化した企業が県外から進出することに対して色々な補助をしており、見学に来ただけで補助金を出すなど、思い切った施策を取り入れている</p> <p>【アニメ産業】 就職を希望する若者が多い産業の誘致・育成</p>	<p>【空飛ぶクルマの社会実装】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 空飛ぶクルマ実装促進事業 <ul style="list-style-type: none"> ・実機デモフライトや飛行ルート検証など、県内フィールドを活用した実証事業の経費を補助 <p>【戦略的な立地促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 企業立地を含む新たな投資を促進（産業立地条例改正） <ul style="list-style-type: none"> ・産業立地条例改正により(R5.4月施行)、全県域で成長産業を重点支援するほか、投資促進地域としてベイエリア地域を設定し重点支援 ・中小企業が立地しやすい環境を一層整えるため、設備補助要件を大幅に緩和（10億等→1億）
②スタートアップエコシステム	<ul style="list-style-type: none"> ● スタートアップによるDX発展支援 <ul style="list-style-type: none"> ・諸外国に比べ日本のDXは全然進んでいない ・対応力のある若い人材や、スタートアップエコシステムと絡めた強化が、社会変革を促すキーになるのではないか 	<p>【スタートアップによる課題解決】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ひょうごTECHイノベーションプロジェクト <ul style="list-style-type: none"> ・県内自治体の抱える社会課題・地域課題の解決を図るため、県内外のスタートアップ等の技術を活用して解決を図り、その成果を県内市町に横展開するプロジェクトを実施 ● 地域しごとサポートセンター事業 <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民や団体等がビジネス手法により地域の課題解決を図る取組を支援する「地域しごとサポートセンター」を設置

議論の対象

重点プロジェクト	第1回推進会議意見	ひょうご経済・雇用戦略に基づき県が重点的に取り組んでいる事業
③科学技術基盤を活用した技術革新支援	—	【科学技術基盤の産業利用促進】 <ul style="list-style-type: none"> ● 科学技術基盤の産業利用に向けた支援 <ul style="list-style-type: none"> ・ FOCUSスパコンの提供により、企業の技術高度化を支援 ・ 県放射光研究センターを通じ、県ビームラインを活用し企業の放射光利用支援を実施
④DX等による生産性の向上	<ul style="list-style-type: none"> ● DXコンペの仕組みづくり <ul style="list-style-type: none"> ・ 企業単体ではDX推進が難しいので、公的な仕組み・支援が必要 ・ ひょうごTECHイノベーションプロジェクトをブレイクダウンして小さなテーマに落とし込み、コンペティションのような形で実施してはどうか <p>【例】Kaggle 企業や自治体、政府がコンペ形式で課題を提示し、賞金と引き換えに、モデルやソフトウェアを買い取る仕組み。企業や地域が世界から支援されながら、DXを進めていくことが可能</p>	【企業人材の確保】 <ul style="list-style-type: none"> ● デジタル技術の実装支援 <ul style="list-style-type: none"> ・ スマートものづくりセンター（県内中小企業の技術実装支援に加えデジタル化支援も展開）や新産業創造研究機構での相談機能を充実し、AI・IoT・ロボットの普及を支援 ● ものづくり企業におけるDXの実践と関連人材育成の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・ DXの導入を促進するため、相談窓口を設置し、セミナーを開催するとともに、企業内でのDXの導入に向けた人材育成を支援 ● 中小企業DX人材育成リカレント教育の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ 兵庫工業会と連携し、関西学院大学や兵庫県立大学が開発した完全オンデマンド型のDX人材育成プログラムを提供し、県内企業のDX人材の育成を支援

議論の対象

重点プロジェクト	第1回推進会議意見	ひょうご経済・雇用戦略に基づき県が重点的に取り組んでいる事業
<p>⑤経営の持続性向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 大学研究への企業参画による新事業展開 <ul style="list-style-type: none"> ・産官学連携のもと、大学と企業が共同で継続的に研究しながら、企業が新規事業を見つけていくことが面白いやり方ではないか ● 企業規模拡大へのインセンティブ付け <ul style="list-style-type: none"> ・年商5億、10億の企業をランクアップさせ、50億、100億企業を作っていく方向性はどうか。ランクアップする企業に何かインセンティブを与えるような施策があれば良いのではないか ● 弱った企業への伴走支援や事業承継 <ul style="list-style-type: none"> ・ゼロゼロ融資の返済が始まる中、足元の経営基盤が揺らいでいる企業への支援が重要。伴走型支援や統廃合に向けたマッチングで助けることが大切 ● 県内M&Aの促進、マッチング <ul style="list-style-type: none"> ・他府県の企業が兵庫県企業に対しM & Aをする案件が増えており、県外への工場移転、雇用の流出や転廃業のリスクがある ・兵庫県の企業の中でマッチング先を探すことが重要 	<p>【SDGsの取組支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ひょうご産業SDGs認証事業 <ul style="list-style-type: none"> ・SDGs推進宣言企業のSDGsの取組のさらなる深化を促すため、宣言企業の取組を県が評価・認証 ・認証ステージに応じて、インセンティブを付与 <p>【海外トッププロモーション】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外トッププロモーションを活用した海外展開支援と外国・外資系企業誘致
<p>⑥地場産業の競争力強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● インバウンドへの兵庫の食の売り出し <ul style="list-style-type: none"> ・インバウンドの旅行消費額は高い。豊かな食を切り口に、価格設定を考え、インバウンドへの対応で競争力を強化してはどうか ● フィールドパビリオンやSDGsなど魅力的な取組ごとの企業広報 <ul style="list-style-type: none"> ・フィールドパビリオンに認定されると、大きな後押しや、問題解決の弾みになる ・県全体でフィールドパビリオンやSDGsを推進し、県内の企業が実際にこれらを成し得ようとしていることがきっちり伝わればよい(フィールドパビリオンやSDGsに関わる企業のPR) 	<p>【地場産業の活性化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地場産業のブランド価値向上と販路拡大 <ul style="list-style-type: none"> ・地場産業におけるSDGsの取組の推進のほか、産地のブランド力強化を促進するため、産地組合等が行う販路拡大、海外展開のための新技術開発、人材育成、首都圏での取組を支援 ● ひょうごフィールドパビリオンの展開 <ul style="list-style-type: none"> ・県全体をパビリオンに見立て活動現場そのもの(フィールド)を、地域の人自らが発信し、国内外からの誘客を促進するフィールドパビリオンについて、コンテンツの磨き上げやプロモーションの展開を行う